

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

試読・購読はこちらから



1月18日号（296号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

阪神大震災の思い胸に・山口穂菜美さん 「海外で災害救助したい」

18日(日)=1、3面



迫る

山口さんは
支えている「思い」
に迫ります。

立命館大3年の山口穂菜美さん（21）
II写真IIは昨年9月、米ワシントン州の消防署にいました。災害時などに応急措置ができる資格を取るために研修でした。消防隊員とともに心臓発作で倒れた高齢者の自宅へ向かい、措置を施します。その後高齢者は病院に搬送され、助かりました。

山口さんは神戸市出身。生まれる前出来事でしたが、阪神大震災の影響を大きく受けています。防災や救命に関心を持ち、自ら学ぶようになりました。大学では京都の消防団で活動したり、大学の垣根を越えた防災サークルに入ったりするなど、さまざまな取り組みを進めています。また、能登の被災現場にも足を運び、復興のボランティアや住民との交流を続けています。

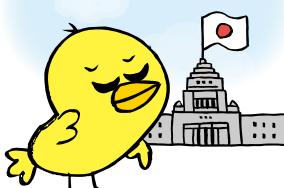


衆院議員の定数削減って？

18日(日)=総合面

維新の会が「身を切る改革」として掲げ、自民党との連立政権合意書にも盛り込まれました。与党は定数465の約1割削減を主張していますが、野党からは「少数意見が国会に届けられなくなる」などの反対論も出ています。

各党の意見のほか、他の主要国（G7）と比較して日本の国会議員数は多いのかについてもまとめました。



衆院議員の定数削減についての議論が続いています。議員定



記者会見するトランプ米大統領=ホワイトハウスで

論点

トランプ大統領就任1年

21日(水)=オピニオン面

トランプ米大統領が第2次政権を発足させてから、20日で1年を迎えます。この間、トランプ氏は高関税政策、国際機関からの脱退表明、ロシアへの融和姿勢、ベネズエラ攻撃など、予測困難で常識外れともいえる行動を続けてきました。米国内でもトランプ氏の政策には賛否が分かれ、対立・分断が深刻です。米国はどこへ向かうのか。識者に今後の展望を聞きました。

村上誠一郎・前総務相が語る 永田町の今

19日(月)=夕刊2面



「歴史は繰り返す」。石破茂政権を総務相として支え、昨年10月に退任した村上誠一郎衆院議員（73）**II写真II**が今、強く警鐘を鳴らしています。日本、そして世界が100年前と同様の「民主主義の危機」にあるというのです。

石破氏の後任、高市早苗首相は衆院解散へとかじを切り、野党の立憲民主党と公明党が新党「中道改革連合」を設立するなど、年明けから激動続きの永田町です。自民党きつての論客・村上さんは何を思うのか、じっくりと話を聞きました。